
SUN DAY ! ! !

伊藤 嶺汰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SUN DAY!!!

【Nコード】

N0525M

【作者名】

伊藤 嶺汰

【あらすじ】

少年の日向唯斗は、いつもと変わらなく何も無い日にうんざりしていた・・。そんな唯斗が周りを巻き込んで、気付かないくらい少しずつ、しかし気付いた頃には、かなり変っていくストーリー。

プロローグ

プロローグ

・・・世の中って奴は、自分の思い通りには決してならない。運命で決まってるだとか、神様が動かしてるだとか・・・。皆は、テレビの見すぎなんじゃないのか？・・・と、いつもそう思ってた。

僕が、この平縄学園の中学2年になった時も、進級したからって誰も、何も言わなかったし。でも、あの日から何かが、変わりだしたんだ。あの日が、どんな日だったかは、と詳しく覚えてない。ただ一番覚えてるのは、春なのに夏のように熱い日差しの日曜日だったって事だ。

プロローグ（後書き）

次回も、期待しててくださいね。

第1章

朝は、デジタル時計の目覚ましで、起きた。・・・くそつ。ちょっと良い夢見てたのに。がっかりだよ。と、現実に少し失望していると・・・。

「兄さん。朝ですよ？早く起きて来てくださーい」

・・・妹の湊の声だ。そろそろ起きないと遅刻する。と言うことだ。少し急いで、朝食を食べる。

「湊の料理は、美味しいな。うん、旨い。」

ふふふ、褒めるの上手いなあ俺。何故湊が、料理を作ってるかって？そりゃあ、この家の親が、海外で、仕事やってるからだ。どんなのか忘れたが、南アメリカだかに行ってるらしい。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「さあ、行くか。」

「そんなに、のんびりしないでくださいよ。もうっ！」

僕と湊は、少し早歩きで学校に行く。湊の焦る姿が、ややキュンと来る今日この頃。

第1章（後書き）

短くやってってますんで・・・。

その頃、学園では……………

「おや？唯斗は？ああ遅刻ですか。」

おあと、申し遅れました。自分は、後藤シユウです。以後宜しく
お願いしますね。

「そんな事今は、どうだって良いでしょ。それより、知ってる？今
日転校生が来るって」

こっちは、新城優香です。皆は、ユウと呼んでいます。この人のフ
ァンクラブがあるとか……………

「いやいや、良くは無いですが……………まあ転校生というのモキにな
りますねえ」

「男子かな？女子かな？ああ男子だったらどうしよう」

ダメだ！！ユウさん？あなたに近づくとした男子は、どうなつた
か知らないでしょう。ファンクラブの執行部とかいう方達が、拷問
にかけるんですよ？危ないでしょ……………！！

「ああ、オレは女子がいいかと」

「どっちでも、良いけどね！」

よくありませんよ……………！！女子じゃなくちゃダメなんだ……………！！
そして、あと3分程度でチャイムが鳴りそうになっていた。

その頃、学園では・・・（後書き）

ええつと。文才なくて、すみません。

今回は、1・5話ということですかね。

次回もお楽しみに！！

第2章

やっと学園に着いた。疲れた。

「じゃあ、ここまでですね」

「ああ、じゃあな」

湊とは、学年が違うので玄関ホールで、別々になった。

少し歩いてクラスに入ろうとするが、やけに騒がしい。

「あ、唯斗だ。遅刻ぎりぎりだねー」

「ああ。てか何なんだよこれうるせえなあ」

「転校生だよ転校生！どんな人なのかな？」

ユウは、朝っぱらからテンションが高い。嫌になる。

「そうかい」

席に着いて改めて思うと、はつきり言って微塵も興味は無い。どうでも良いだろ……。

と、そこで丁度チャイムが鳴る。いいタイミングだ。

担任の高橋先生が、知らない女子を連れている。拉致したんだろ

うか……。心配だ……。

「今日は、転校生がいます。……では、自己紹介をどうぞ」

「……転校生だったのか。良かった良かった。」

「ええっと。桐生奈緒です。宜しく願います！」

「では、桐生さん。あの席に座って下さい」

桐生奈緒は、こっちに来た。……隣の席か……あれ？俺に近ずいてくるのか？何故？

「あの……隣だから、宜しく願いますね。」

この日からだ、僕の何かが、変わってっただのは。

第2章（後書き）

駄目だし宜しくお願いします。

第3章（前書き）

ナレーション毎回変えようと思っている作者です。

第3章

．．．．．そんなことがあった。今日は、もう家に帰ろう。（まだ3時限目なんだが．．．）

家に帰ったら、気付いたんだが、教科書類を忘れて来てしまった。

．．．まあどうでもいいでしょう。どうせ何の役にも立たん。

．．．．．帰っても特にする事が無く無意味な時間を過ごすのみだ。

．．．．．

起きたら夕方の5時だった。だいぶ寝たらしい。が、相変わらず暇である。

今日は何もすることが無いので、このままだらだらしていようと思っ
ていると．．．ドアの開く音がした。湊が、帰ってきたのだろう。
．．．．．？ありや？妙に声と足音が多いような．．．．．。

第3章（後書き）

いつもどおり鼻を折るような駄目だし宜しくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0525m/>

SUN DAY!!!

2011年1月16日03時28分発行